

この人に聞く

増田 泰さん

年から本格的な捕獲を始め、4割ぐらい減つたとみられて
います。

シカは増えすぎると、植物の成長、植生に大きな影響があります。ミズナラといった広葉樹の若木がみんなシカに食べられ育たないし、下草もなくなる。最後は広葉樹がなくなり、針葉樹だけの森になつてきます。

より厳禁

過去5年間でヒグマの大量出没の年が2度ありました。餓死したクマも見つかっています。これをどう読み解くかは、専門家でも意見が分かれます。一つは、クマが増え過ぎて、自然環境が持つクマのいわば収容力を超えたという考え方です。

もう一つは、収容力の方が低下しているという分析で

「新世代クマ」と名付けられた人に無関心なクマもいます。今日も死んだイルカが漁港に流れ着いたので、依頼を受け処理しました。臭いがクマを誘引する恐れがあるからです。クマが国立公園、自然遺産の範囲を超える人間の生活圏に入つて駆除されないようになるのが最大の使命です。

知床の玄関口、斜里町口の中心部は、電気柵で囲い野生動物が近づけないようにしています。国立公園に入ると道路沿いにいるエゾシカやクマを見掛けることがあるし、ウトロ側では年間150件ぐらいのクマの目撃情報もある。冬場は冬眠するので、夏は1口に何件もの連絡があ

の空箱を捨てればクマは豊
いので、人の近くにいる方が
食べ物を確保しやすいと学習
します。だから、ごみを捨て
ないように常に呼び掛けてい
ます。



• 1

■ 静岡・下駄

履き心地の良さ追求

普段の服にも合い、現代の生活になじむ新しい下駄が人気だ。

静岡市で下駄の製造・販売をする「水鳥工業」は今年で創業80年。下駄木地の製造から始まり、次にサンダルの中底を手掛けるようになった。2代目の水鳥正志さん(73)が中底を作る技術を応用し、今までにない履き心地の良い下駄を考えたといふ。

木地は丸みのある形で、歩いてみると足の裏にしっかりとフィットする。底の部分にはゴムが貼られ、足に負担が掛からない工夫も。鼻緒は幅が広く、足の甲を包み、指でつかみやすい。また中にクッション素材を入れているため長く履いても痛くなりにくく、靴擦れしにくい。中でも伝統的な模様やシックなデザインなどアソビアリーフィット感に

影響する鼻緒の取り付けは一番大切。入社1年目の野口優吾さん(19)も現場で奮闘していた。

「どんな装いにも合うので、プレゼントに買っていくお客様が多いですよ」と企画・営業の島田文美さん(37)。デザインだけではなく、歩きやすさや履き心地の良さを伝えると、「ずっと履物でやってきた会社ですか」と強く結びだ